

広陵町教育委員会だより

令和5年度

3月号

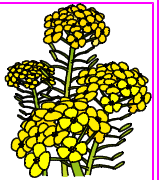
広陵町教育委員会

3月11日発行

北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001

文責・編集 植村



子らが手を 巻向山に 春されば
木の葉しのぎて 霞たなびく

巻10-1815 柿本人麻呂

(あの子の手を巻くという名の巻向山 その山に春がやってきたので木々の葉をおしのけるように霞が棚引いている)

3月は別れの季節!



令和5年度もあつという間に3月を迎えました。日本では、旧暦3月を『弥生(やよい)』と呼び、現在の新暦3月の別名として用いています。草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月(きくさいやおひづき)」が由来とされています。英語名の『March』は、ローマ神話のマルス(Mars)の月を意味する「Marius」から取ったものです。

3月6日(水)は24節気の3番目である啓蟄(けいちつ)でした。啓蟄とは、寒さが緩んで春の陽気になってきたことで、土の中から虫たちが動き出す季節のことを指します。「啓」はひらく、「蟄」は土の中で冬ごもりをしている虫のことです。この時期、三寒四温を経てようやく本当の春が訪れます。

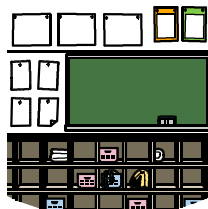
さて、この3月は人との別れの季節でもあります。13日(水)には中学校の卒業式が、15日(金)には、幼稚園・こども園の卒園式が、そして18日(月)には小学校の卒業式が控えています。



卒園、卒業する子どもたちはそれぞれの園・学校では最高学年としてリーダーシップを発揮しながら、「園・学校の顔」として、園行事や学校行事にそれぞれの場面で精一杯活躍してくれたと思います。また、後輩に対しても園や学校の歴史と伝統の一部を伝えてくれたと思います。3年間、あるいは6年間の思い出を胸に、新たな学校生活が始まる小学校、中学校、高等学校に夢と希望を抱いて進学してほしいと思います。

また、卒園・卒業する子どもたちを含め、それぞれの園・学校では、各学年の教室や廊下などに、掲示物や学習活動の成果物など、子どもたちのがんばった様子が貼り出され、一人一人の成長やクラスとしてのまとまりが実感できます。その場では、喜びや悔しさなど心動かす出来事の一つでしかありませんが、その出来事の連続が豊かな感性を培い、自信や意欲につながるようになります。

この時期、卒業や進級を前に、「がんばったこと」「できるようになったこと」を振り返り、一人一人の努力や成長を確認したいものです。そのことが、私がいつもこのたよりに書いている自尊感情や自己肯定感の育成につながると思います。これからも「子どもたちのために」を合い言葉に、各学校、保護者の皆様、地域の皆様が一体となつてつながりを強め、広陵町の教育活動を推進したいと思いますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



教育委員会の取組

スポーツ少年団のスキー活動

令和6年2月16日(金)~2月18日(日)の間、長野県白樺高原国際スキー場において、広陵町スポーツ少年団のスキー活動が行われました。16日の18時からかぐや姫ホールで出発式が行われ、参加する50名の子どもたちに対して山村町長、山村議長、植村が激励にかけつけました。その後、18時半過ぎに2台のバスに分かれ、一路、白樺高原へ向かいました。宿泊先である白樺高原ホテルに到着したのは午前1時過ぎでしたが、子どもたちは元気に各自の荷物を持って、それぞれの部屋へと向かい眠りに就いたようでした。

17日は快晴で、雪の斜面はキラキラと輝く絶好のスキー日和でした。半分ぐらいの子どもたちは初心者でしたが、熱心な指導員の教えを受けて昼頃にはボーゲンで上手に滑ることができていたようです。午後には、リフトに乗って山上から滑り降りる班も多くなり、思い切りスキーを楽しんでいました。翌日の18



日も快晴で、午前だけの活動となりましたが、初心者だった子どもたちは、昨日に習得したボーゲンからプルークボーゲンに移行し、どんどん滑ることができるようになり、とても楽しいひとときを過ごしていたようです。

楽しい時間はあつという間に過ぎ去り、2日間、お世話になったスキー場とホテル、そしてホテルの従業員のみなさんに感謝の気持ちを込めてお礼を述べて帰途につき、無事、夕刻に広陵町に帰ってきました。例年より少ない参加ではありましたが、一人一人自分の力に合わせて思いっきり楽しんでスキーができたこと、そして、新しい友達や仲のいい友達と素敵な思い出を築くことができたことが何よりも良かったのではないのでしょうか。

いじめ防止標語 最優秀作品の表彰式!

2月21日(月)に役場第一委員会室において、令和5年度いじめ防止標語の最優秀作品の表彰式を開催しました。標語募集は、平成30年1月に広陵町いじめ防止基本計画が策定されたことを受け、いじめ防止啓発の一環として令和元年度から取り組んでいるもので、今回も令和5年11月に町内小学校 **裏面へ**



4・5年生、中学校2年生を対象に募集しました。募集の結果、4年生302点、5年生367点、中学2年生275点、計944点の応募があり、厳正な審査の結果、各学年の最優秀作品を1点ずつ選考しました。

表彰式には、最優秀受賞者と保護者の皆さん、教育委員の皆さん、そして校長先生方も出席いただきました。受賞者と作品を下記に紹介します。



小学校4年生の部 柏原 巧実さん(真美ヶ丘第二小学校)

「気づけない かわれた心 なおらない」

小学校5年生の部 南 玲海さん(広陵西小学校)

「考えて 心にささる その言葉」

中学校2年生の部 富松 心奈さん(真美ヶ丘中学校)

「やめときや それで防げる 傍観者」

※応募された皆さんには、最優秀作品を掲載したクリアファイルを届けました。

第3回人権セミナーを開催

2月21日(水)午前10時からかぐや姫ホールにおいて、第3回人権セミナーを開催しました。毎年3回目は人権教育推進協議会と町PTA連絡協議会の家庭教育学級がタイアップして研修しています。今回はLGBTQについての認識を深める意味で、「子どもの性の多様性について考えよう」というタイトルで性同一性障害の当事者である定政輝(さだまさひかる)さんの講演を聴く機会を得ました。

定政さんは、小学生の頃から女性として生まれてきたことに違和感を持ち、「なぜ、女の子として生きていかなければならないのか」と疑問に思いながら過ごされました。そして、中高で熱中したソフトボールに心の拠り所を見いだした中で、20歳の時にカミングアウトされ、26歳で性別適応手術と同時に戸籍上の性別を女性から男性に変更されました。現在は、(株)Rainbow Create ダイバシティ事業部の代表として、「ダイバシティ教育」や「LGBTQや多様な性を考える」などの講演活動のほか、定期的に奈良レインボーカフェ等のLGBTQ

や多様な性、不登校や引きこもりなどで悩む子どもたちの居場所づくりをされています。

講演の内容は、「定政さんの生い立ち(女性として生まれながら男性の心を持つことへの葛藤)」「自分らしく生きることの大切さ」「子どもの性の多様性を通じて、一人一人の違いを大切にすること」でした。特に、先日、県が4月からパートナーシップ制度の導入について実施する方針を打ち出したことは、定政さんの取組が認められたのではないかと思います。



ジェットロの所長が講演!

2月15日(木)の午後、広陵中学校体育館において中学校2年生を対象として、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェットロ)の奈良貿易情報センターの木川美樹子所長さんに「日本と海外の違い、奈良(広陵町)と世界各国のマッチング」と題して講演をしていただきました。

この講演会は、2年生の「総合的な学習の時間」において、キャリア教育に取り組んでおり、様々な職業について調べたり、話を聞いたりすることで、自分の将来の職業について考える一助にしたいということで企画されました。



木川所長さんとは、2年前に山村町長とともに話す機会があり、ジェットロ奈良が海外55カ国と国内51拠点の国内外ネットワークを活用して輸出・進出等の海外ビジネスに関心のある奈良県の事業者を応援していると聞きました。特に広陵町の地場産業である「広陵くつつた」の海外展開に力を入れようとしていると聞かせていただきました。そのようなことから、町長とともに何とか中学生にグローバルな視点から、ぜひジェットロの取組と木川さんのこれまでの経験を話してもらえたらとお願いし、実現したものです。

講演のキーワードは、「今日覚えてほしいこと」「世界は広くて狭い」「奈良は凄い、広陵町も凄い」でした。

はじめは数枚の写真を見て国名を答える「クイズ この国?」で、子どもたちの緊張は解け、とても和やかな雰囲気の中で始まりました。そして、「ジェットロが目指す海外展開について」「様々な国での日本、奈良県の地場産物の紹介と売りこみについて」「英語やフランス語などを勉強して身に付けたこと」などを話され、子どもたちにとって木川さんは憧れの存在になっていました。



子どもたちの感想には「ぜひ海外に羽ばたいて仕事がしたい」「英語をはじめ外国語を話せるようになりたい」「木川さんのようにグローバルな仕事がしたい」という世界に向けてチャレンジしたいという想いが伝わってきました。

市町村対抗子ども駅伝で、総合5位に!

3月2日(土)檀原運動公園にて、第19回市町村対抗子ども駅伝が開催されました。昨年の12月17日(日)に開催された町マラソン大会で選考された男女8人が駅伝の部とタイムトライアルに出場しました。この日はかなり冷え込んだ朝となりましたが、一人一人が1周1630mの距離をカー杯走り抜け、広陵町から応援に駆けつけた多くの人たちの声援を受け、駅伝の部では、これまで最高位だった第5回の6位を超え、堂々の総合5位、町の部で2位となりました。

